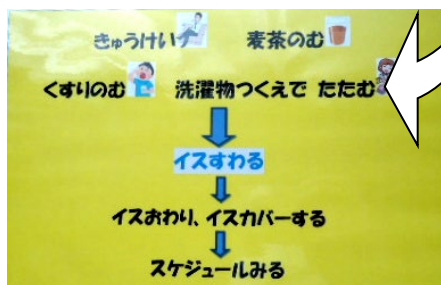




↓ がっつり工作中。イイネ ☺



↑ イスに座ってのんびり休憩～と思いきや？！



左写真のイスの使い方シートで、
イスに座るタイミングを
しっかり確認して座っています！
続きは5ページをご覧ください☺

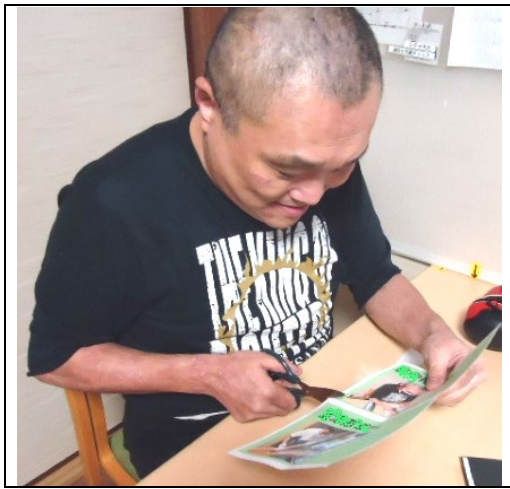
目次

- | | |
|--|----------|
| ・「T・D・S・N (Tanpopo Daily Support News) 60」 | <2～5ページ> |
| ～忘年会開催しました！～ | |
| ・表紙の続きの話 | <5ページ> |
| ・後援会のご案内・ボランティアの募集・編集後記（編集部） | <6ページ> |

～忘年会開催しました！！～

昨年12月、当法人の生活介護事業所である『わたげ』と『ふぁず』にて、「今年も一年お疲れさまでした！」という想いを込めて、忘年会を開催しました。以前は、いくつかのグループに分かれて、普段行く機会の少ない少しリッチなレストランで外食を楽しんでいました。みなさん毎年楽しみにして下さり、11月頃になると予定を聞いてくる方もいました。

しかしこの新型コロナウイルス感染拡大が続く中、気軽に外食に出掛けるわけにはいきません。けれど、毎日仕事を頑張っているみなさんに、少しでもねぎらいの気持ちをお伝えしたい。一年頑張ったという達成感を感じてもらいたい。そこで、お店からテイクアウトをして、施設の食堂で食べる忘年会に挑戦することにしました。最初は、なんだか味気ないかなあ、みなさんに楽しんでもらえるだろうかと不安がありましたが、外食での感染の可能性を減らし、みなさんが安心して食事を楽しめるというメリットがあります。2020年から初め、今回は二回目。前は手探りでばたばたとしていましたが、今回は、利用者のみなさんの素敵な写真とともに、ご報告をしたいと思います。



まず、前回やって良かったなと思った点は、会場（施設の食堂）を飾り付け、普段と座席配置を変えたことでした。利用者のみなさんは、毎日食堂で給食を食べています。日々の給食と、いかに異なる雰囲気を作るかが、ひとつのポイントでした。

さらに、せっかく飾り付けをするなら、そういったことが好きな方たちの力も借りよう！ということで、飾り作りを利用者さんで行うことにしました。

飾り作りはもちろん仕事ではありません。楽しんで行えるよう、それぞれ利用者さんが得意とする動き、興味がありそうな色や飾りを考え、提供しました。

飾り作りの材料を見た途端、職員が何も言わなくても「忘年会に使うんだよ」と察して快く協力してくれる方、普段と違うカラフルなお花作りを笑顔で行う方、慣れない手順にいつもの仕事より難しいぞといった真剣な表情で行う方、様々でした。



でもみなさんが同じように、笑顔や頷きでリアクションをして下さったのは、職員がお礼を言った時だったのが印象的でした。確かに仕事の時は、「お疲れさまでした」とお声を掛けることが多く、利用者のみなさんも当たり前のように次の活動に移ります。それは、自分の仕事、役割という意識がある表れであり、それもととても素晴らしいことだと思っています。その一方で、飾り作りのように、いつもと違うことを人をお願いされて、





ふぁずの食堂
みなさんが作ってくれた飾りで飾り付け！！
実際は2グループに分けて食事を楽しみました！

それを受け入れ、人に教わりながらやってみる。やり切ることで、相手に「ありがとうございました」「助かりました」という言葉をもらう。多くの人にとって自分に自信が持てる心地良い言葉なのだなと感じました。

次に、忘年会を楽しんでいただくために一番大切なこと。それは美味しい食事です！できれば見た目もワクワクできるような！！定員が30名の『わたげ』と9名の『ふぁず』では注文数が異なるので、『わたげ』では3つのお店から、お店とメニューを選ぶ方法、『ふぁず』では決まったお店からお好きなメニューを選ぶ方法にしました。お店選びで感じたのは、通常のレストランが新たにテイクアウトを始めており、選択肢が増えたことです。ですので、地域に還元するという思いで、地元のお店中心に選びました。必要に応じて、お店へ足を運び、お料理のサイズを聞いたり、メニューの写真を撮らせていただく等、ご協力を頂きました。



こういった準備をもとに、右の写真のようなメニューアンケートを作成。職員が連絡帳に挟んでいると、すぐに見に来る方がいました。また、ご家庭から、自宅でアンケートに丸を付ける際、目がキラキラとしていて、もしかしたら食べる時よりも（！）楽しんでいるようだったというお話も伺うことができました。余談ですが、職員も自分の食べる物を選ぶ時はみんなでワイワイ楽しんでいます(^_^)

利用者のみなさんには、今年も外食ではなく食堂で忘年会を実施すること、自分が食べるメニューや参加者等、それぞれの利用者さんが知りたい情報が入ったそれぞれの予定カードを用意して伝達しました。

前日には、みなさんに作っていただいた飾りを会場に設置し、座席は普段と配置を変えることで給食と違うことを示しつつ、さらにパーティの雰囲気が出るように、そして食事する人同士の距離が取れる配置にしました。



スケジュール一例です

いよいよ忘年会当日です！通所時から、「今日は忘年会だよ」と笑顔で話す方、一日のスケジュールのいつもの昼食カードを忘年会用カードに貼り替えて笑顔で見ている方、普段より作業がとても早く、予定の30分も前に終わってしまう方等、様々な様子から忘年会を楽しみにして下さっているだろうことが伝わってきました。

職員がお店へお料理を取りに行き、トレイにセット。出来るだけ温かい物を食べてもらえるよう大急ぎで準備を進めました。テイクアウトの容器が映えるよう、お皿にカラフルな紙ナプキンを敷く等出来る限りの工夫をしました。

さあ準備が整いました。食堂が密にならないよう、食事時間をそれぞれずらしていただいているため、全員で「お疲れさまでした！乾杯！！」とはいきませんが、『わたげ』では会場に音楽を流したり、みなさんが出来る限り快適に食事を楽しめる環境をご用意しました。



食事を半分ほど終えたある利用者さんが、「次回12月に忘年会だよ」と。来年の予定はどのようなという確認の言葉でもあると思いますが、真っ最中の忘年会が美味しくて楽しくて、またやりたいよという意思表示だと考えると、嬉しい限りでした。写真を見て頂くと分かるように、みなさん笑顔多く、思い思いに箸を進め、施設での忘年会を楽しんでいただけたと思われ、ほっと安心できました。



話は少し変わりますが、わたげやふぁずは、受注作業を中心に行っています。以前からお話している通り、作業をいくつかの工程に分け、それぞれの利用者さんが得意な工程を担いながら、全体の作業を進めています。ゆえに、利用者さん自身も、あの人の材料が自分に回ってくるぞということが分かってきて、その作業を早くやりたい時は、その材料を作っている利用者さんの様子を見に行ったり、その利用者さんのスケジュールを指さして「ケーブルカット」と、欲しい作業種名を言ったり、

欠席の利用者がいると「〇〇さん」と職員に聞いてきたり。基本的にはそれぞれの作業場所があり、それぞれの日課で、それぞれの作業種を行っていますが、同じ作業場で働く仲間という意識があるのではないかなと考えています。

コロナ禍で、日本中どころか世界中の人々が、生活スタイルの変化を余儀なくされています。日本には、「同じ釜の飯を食う」という言葉の通り、食事をともにする、同じ物を食べることで、精神的なつながりを感じる風潮がありますが、それが容易なことではなくなりました。食事場面だけでなく、利用者さんがこれまで積み重ねてきた作業や活動、外出等、様々なことを中止せざるを得ない状況下、利用者さんへ提供できる支援が限られてしまったと残念な気持ちになることが多いです。





しかし一方で、利用者さんの負担になるかもしれないと考えつつ提供した、マスクの着用やアルコール消毒の実施、活動の中止や内容の変更等、思いの他すんなり受け入れ、自発的に行動が変わっていく様子がこれまで多く見られました。

今回ご報告した忘年会についても、利用者さんたちはみな、変化を気にすることなく、とても落ち着いて食事を楽しんでいたように思います。食事という多くの方が好きなことであったからという理由もあると思いますが、職員が思っているほど利用者のみなさんは、『変化』することを嫌がることはなく、それどころか、施設で忘年会を行うことで必要となった飾り作りを楽しみ、職員としても、利用者さんの新たな力を知ることが出来た機会となりました。毎年恒例というものも良いですが、『特に問題はないから今年も同じ』

では、何も変わっていきません。変えてみて、前の方が良いと思えば戻せば良いのだと思います。新たな忘年会に法人全体で挑戦したことを通し、職員の側が、変化を恐れない事の大切さを改めて感じました。利用者さんの力を信じて、利用者さんが秘めている柔軟性に力を借りて、進化し続けられるよう精進していきます。

庄司恵美子



わたげの豪華弁当も大好評でした！

～表紙のつづきの話～

表紙写真のAさんが、一時期、作業中に、自分の休憩用イスに座ることが頻繁なことがありました。休憩用イスが作業エリアから見える位置なので、見ると座りたくなるのかと考え、見えない位置にしましたが変わりませんでした。作業は立つて行うスタイル。暑くなる時期でしたので、暑さで疲れやすくなって座りたいのかな、作業に飽きてきてしまったのかな等々考えました。しかし、ご本人が作業中にイスに座った時、職員が「作業お願いします」と声を掛けた時の様子から、一つの推測をしました。声を掛けた時、仕事の再開を嫌がる素振りは全くなく、あくまで私の見た感触なのですが、(はいよ～)というリラックスした感じなのです。もしかしたら、私たちが『休憩用イス』と思っているイスは、ご本人にとっては『自分が好きな時に使って良いイス』と思っているのかも知れないと考えました。確かに今まで、「休憩の時はこのイスに座ります」ということは説明しましたが、「このイスは休憩の時に使って下さい」なんてご本人にお伝えしたことはありません。そこで、表紙の写真のような、イスの使用用途を示すシートを作りお伝えしたところ、作業中にイスに座る頻度が激減したのです。作業中にイスに座ってしまう方なのではなく、イスの使い方を知らずにいた状態だったのです。支援者の勝手な思い込みを反省し、行動の理由をきちんと捉えられるようにしていこうと思った出来事でした。

たんぽぽの郷後援会は、横須賀・三浦地区に在住の「自閉症」という障害を伴った人たちが、地域の一員として自分らしく生活していくために、必要な支援に取り組んでいる【社会福祉法人横須賀たんぽぽの郷】の活動を支援する事を目的に組織されました。

たんぽぽの郷後援会にご理解、ご協力くださる方は、下記の郵便為替口座をご利用ください。

郵便為替口座加入者名 たんぽぽの郷後援会

E-mail: tanpoponosato-ch-rg250e@jcom.home.ne.jp

TEL:046-844-0038/FAX : 046-844-0036 E-mail : aag40690@hkg.odn.ne.jp